

東 筑 紫 短 期 大 学  
同 窓 会 通 信  
つ く し

2026. 55号

発行日／令和8年3月14日  
発行／東筑紫短期大学同窓会通信  
編集責任者／永濱初子  
印刷／(株)プリンテックヤマモト



ご挨拶

東筑紫短期大学同窓会筑紫会 会長

永濱初子



大学の庭の枝垂れ梅が、片隅で品格のある姿で美しく咲き誇っています。

東筑紫短期大学同窓会筑紫会の皆

様には、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。

さて、この度、百二十名の皆様を新会員としてお迎えすることを心より喜び申し上げます。会員総数は三万三千九百一十八名となり、同窓会筑紫会の歴史の重みを感じております。今年度も総会は書面総会となりました。役員と当番幹事の協力で活動してきました。

研修会は、一回目は今年度の当番幹事の服飾美術専攻科卒業の石井恵美子さんを講師として、「消しゴムスタンプで年賀状作り」、二回目は「ペーパーナフキンを使用してサンタクロース作り」、三回目は色紙三色で「くるくる廻るコマ作り」と題して開催いたしました。二回目と三回目は私、永濱が指導いたしました。

十一月二日・三日の大学祭バザーも大盛況の内に終り、売上金の一部を令和六年能登半島地震復興支援のための募金として、寄付をさせていただきましたこといたしました。この一年間の役員の皆様、当番幹事の皆様の熱意に感謝申し上げます。

末筆ではございますが、母校の発展と会員の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

## 「限界状態」に向き合う四つの心



学校法人東筑紫学園 理事長  
九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学長

室井 廣

ている大学祭のテーマに向かっている成功実現など、いろいろとあるだろうし心を痛めていることもとも思う。

人は皆誰でも自己の夢目標を成功裡に実現したいと思う。その夢が自己の四つの心で創り上げたものならなおさらである。

自分の四つの心が夢見たというところが重要である。自分の切実な思いがこもっている夢だからこそ重要なのだ。引くに引けなくなる時もある。しかしよくよく見ていくと、人生の大事な夢目標をいつも達成・自己実現してきた人などはかなり少ないのではないか。ほとんどの人は夢を実現できなかった敗者ではなからうか。我々はこれまで生きてきて大事なことではなかなら敗北しているのではないか。私には、かなり重要な局面で手ひどい敗者経験のあるものが長い人生の中で、結果的には結構自己実現している人が多いように思う。そんなことはない、成功

が成功を呼ぶのだという人もいよう。一方で挫折が怖くて夢目標を持ってない、持っても挑戦できないという人も出てこよう。人はそれぞれの人生を生きているからこれだと断定はできない。そこで少し観点を変えて、そもそも夢目標はどこから来たかと考えると、初めに述べたように基本的には四つの心から生じているものである。切実な関心を有した目標ほどそうなのである。

より本質的に言うなら、非連続的に連続している自分の四つの心が夢見ているのである。そしてこの四つの心は人生という時間軸の中で、一つの夢を実現するとさらに次の夢を追い求め限界がないように見える。要するに夢目標それ自体も大事であるが、だんだんと次々にレベルを上げていく四つの心・生命力への視点も重要だということである。目標自体の成功も大事だが、それを着想し実現していく四つの心の発動増大もはっきり

見据えておかねばならぬということである。両者はかなり深い相関関係にあるが一応分けて考えておくということも大切なのだ。夢目標は失敗挫折しても、その実現に向けて努力発動した四つの生命力は増大している。ということもあるからだ。要するに挫折失敗にもいろいろあって、そのありようが今後の可能性を拓き失敗は成功の基にもなる場合もあるということ。

夢目標に向かって四つの心がひたむきになっていくか、発動はしているがいい加減か。それとも全力投球しているか、この点を具体的に国家試験勉強を例に挙げて述べてみよう。本学は実学的大学だから、国家資格やそれに準ずる試験に合格することが大きな目標の一つになってくることは論ずるまでもない。

入学の時から意識されていないかもしれない。国家試験に合格しなければ当然専門職には就けない。だから学生さんは真剣にそのことを考えねばならない。考えるだけではなくその日が来る時に備えて計画的に試験勉強をしていかねばならない。学期ごとの定期試験とは違い四年間の長期戦だ。「一夜漬け」というわけにはいかない。なめてはかかれない。短大の学生さんは資格取得に必要な単位を2年間で取得しそしてその知識技術が即就職先で必要とされるのだからおのずと就学態度に真剣さが要求されようというものだ。

こういう長期レース・国家試験への取り組みの中で四つの心の中でも特に四分の一の「知性の心・生命力」の発動が得意の人は比較的専門用語や技術が習得しやすいのであるが、必ずしもそういう人ばかりではないから試験勉強中かなりの苦悩ストレスにぶつかることになる。「いくら勉強してもこれ以上は覚えられない」「理解できない」「もう無理」という限界状態だ。かといってここまで来てあきらめ断念することもできずと苦悩のスパイラルが我が身をさいなむ。つらい時である。

こういう限界状態ですぐにギブアップし夢目標を簡単に放棄するのは危険だと思っております。

私たちは生きていく過程で様々な苦しみや困難なことに直面せざるを得ない。夢目標の実現を目指すものとして避けられないことである。自分の夢目標を実現するためには迫りくる多様な試練を乗り越えていくしかない。そのために四つの心・生命力は与えられている。しかし、いくら四つの心を与えられていてもかなり厳しい自己の限界状態のような試練に直面するようになる。無論、有り余る才能資質とそれを伸ばしてくれる環境に恵まれた人は、夢目標にまい進できようが、そんなに恵まれた人は少ない。大抵の人は夢目標実現のために相当の努力工夫が要求される。今直面している皆さんの学生生活も国家試験や就職採用試験そしてさしせまっ

まずは苦しいかもしれぬがその限界状態に對峙してみてもどうかと思う。見据えてみてはどうか。自分の限界状態を見据えながら理解覚えられなくとも勉強を続けることが大切だと思ふ。続けながら「自分は今度は簡単に引き下がらんとぞ、これ迄はいつも簡単に引き下がってきたが今回は自分の限界を見据えてやる」「こういう状態でもいつも受け身で消極的であった自分だが今回は自分の青春と人生の夢がかかっているんだから簡単に弱気にはならんとぞ」と限界状態に呑み込まれないで、逆に呑み込んで見据えてやるからな」と自分の限界状態での可能性に賭けてみてはどうか。意外にも喰らいついてしつこくやっているといつしか限界の扉が開けてきてすんなりと頭に入ってくることもあるのだ。不思議なことのように思えるがそういうこともある。私も何度か体験した。不思議のように思えるが本学の教育理念・四つの心・四つの生命力から見れば結構説明がつくのである。まず四つの心の知性を思い浮かべ自分の中の「知性・生命力」が執着持続することによって発動発達する可能性が

ある。いつも中途半端だった自分の知性の生命力がより強く発動したと意識できる時があるのだ。どんな厳しい状況でもあきらめないで逃げないで一定期間持続していると自分の中に何かが生じてくる時があるのだ。この場合うごめくのは「知性」だけではない。自分でつかんだ夢目標を手離すものかという「荒魂・勇氣」の生命力も発動してくる。更に、「和魂・親和力」も連動してくる。「限界に挑戦している仲間や先輩、そして先生方に「乗り切り方」を教えてもらうことだ。恥ずかしいことなどはあるはずがない。自分の目指す夢目標が人のためになるものであるなら基本的には職業的同志なのだから。そして目指す職業が人のためなら、真にそう思っているならば続いて「愛の生命力」も連動的に発動してくる。「私のような資格者・専門家を必要としている人が待っているのだ」「期待している人がいるのだ」と思えば人を育む愛の心も発動してくる。四つの心は一つの心だから以上のような反応は当たり前前の反応なのだ。国家試験のような長期戦では四分の一「知性的生命力」の発動も持続的にしつこく計画的に

やらねばならぬが、他の四分の三の生命力も発動させなければならぬ。四分の一だけで闘うのではなく自分の四分の四の生命力を発動して一体化してやり抜くことが肝要なのだ。「四つの心・生命力」の四分の四を発動意識で限界状態に挑む姿勢を持つてもらいたい。人生の限界状態のような時は、この「全き生命力」の発動自覚を持って対処してもらいたい。必ず自分なりの限界状態突破ができると思う。

ここの所も少し掘り下げて見る。では何故、持続力を持ち四つの心の四分の四をまとめると思議な力が出て来るのか。それは我々の人格の中には我々には認知できないような深い領域、未知なるところがたくさんあるからである。例えば潜在意識とか言われるところがあり、まだまだ「開かずの間」があるのだ。そしてそんなことよりこの「四つの心・生命力」そのものが生殖細胞を通して非連続的に連続した時代を超えて我らの中に生き続けているということだ。どんな厳しい歴史的限界状況でも生き抜いて我らに生殖細胞を通して四つの心・生命力をタダでプレゼントしてくれた両親祖

父母先祖を考えれば我らの中に強力な生命力が貯蔵されていることは間違いない。現に我らは先祖様から生き続けて今いるのだ。「四つの心・生命力」を深くしっかりと見つめればかなりの生命力を発動発達させることができるのだ。

国家試験勉強で追い詰められ、自分の限界状況で苦しんでいる時こそしつかりと自己を把握しなおし、自分の夢目標はそもそもかつての自分の四つの心が創り出したものであることを再認識する。そこで苦しんでいるのなら四つの心の生命力そのものを一体的に統一理解しその苦しみに対応し広い意味での「全き生命力」へと自己の認識力を高めていくことなのだ。高校時代に自分で選択した夢目標はあくまでもその時点からの夢目標なのである。そしてその目標を設定した四つの心もその時点の生命力なのである。「初心忘るべからず」という言葉もあるが、初心は初心である。状況は刻々と変わっている。何よりもその目標を定立した四つの心・生命力も変容している。目標そのものだけを追求するだけでなく、目標を選んだ四つの生命力の再把握増強そのものも大事な

のである。極論すれば、「四つの生命力」がしつかりと目標を通して元氣澁刺に育つていれば目標の挫折など仮にあったとしても、いくらでも新たな目標は設定できるのである。厳しくて辛い限界状態は、そういう意味で本学の建学の思想では自分の「四つの心・生命力」を大きく発動発展・再発見させるチャンスなのである。

(新設学部こども教育学部と食環境データサイエンス学科の募集そして私事のある大きな願望が去来する中でようやく本稿を書き終える。長い強烈な夏が終わり短い秋に包まれて齢77・喜寿を迎えた。多忙の折を見ての創設者の教育思想も書き始めて27年前後になるがいつ終わるかわからない。私は恩師東筑紫学園創設者・宇城信五郎晩年の弟子であるが、どんな厳しい時でも先生が私の中にいると思っている。個人で四つの心の教育に基づく学園建設をやっているのではないと思っている。いろいろと足りない不肖の弟子故恩師は眼を離せないのである。)(本稿は、令和7年度大学祭パンプレット「群青 Go Beyond Blue」にも掲載されたものである。)

## 恩師より

### 「筑紫の心」のともし火を いつまでも

食物栄養学科長 教授 土谷 政代



本学を卒業される学生の皆様、ご卒業誠におめでとうございませう。新たな目標に向けて決意を新たにされていることでしょうか。

私は、本学に勤務する前は、小中学校で児童生徒や、その保護者を対象に「食」を通じた教育指導に長年携わってまいりました。本学に勤務させていただくにあたり、本学の建学の精神であります「筑紫の心」に深く感銘を受けました。とりわけ「教育とは心の畑を耕すこと」であります。(中略)心の畑の草をむしり肥料をつちかい新生する芽を伸ばしていくところに教育の使命があります。」の一文は、

一人ひとりの個性と可能性を伸ばし、社会で自分らしく生きる力を育むための教育支援の原点だと考えています。

本学で学ばれた卒業生の皆様は、勇気・親和・愛・知性の建学の精神のもと、実学教育のカリキュラムを通して知識の修得だけでなく、それを社会で実践・応用し、具体的な問題解決や貢献に繋げられる力を身につけてこられました。

社会人として、大きな一歩を踏み出すことができる皆さん方ですが、多様な価値観の中、少子高齢化、高度情報化、グローバル化、と私たちを取り巻く社会は急激に変化しています。壁にぶつかった時は、本学で学んだ「筑紫の心」の人間力・ネットワークを大切に、感謝の気持ちやチャレンジ精神を忘れ

ず、一歩一歩前に進んでください。卒業生の皆様の新たな門出と今後のご多幸、更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。また、学生の皆様の学びや活動を

長年にわたり、側面から支えてこられた「筑紫会」の永濱会長をはじめ、同窓会の皆様の更なるご発展とご健勝を祈念いたします。

## 卒業生だより

### 「恩師の教えと温かい見守りに 今がある」

保育科第14期生

大江 康子(今村)



本学へ入学した私の動機は卓球が縁でした。熱心な指導者、松本幹雄先生の誘いの下で、卓球だけでなく、ドアのノックの仕方や、挨拶のやり直し等の指導を受け人間としてのマナーを厳しく学びました。しかし、その

反面、卒業式の日、スナックでのお酒の飲み方のアドバイスをして下さる優しい一面もありました。卒業後は、幼稚園教諭として1年半、その後保育所にて10年あまり勤め昭和57年、主人の転勤で広島に。直後に、役場の臨時職員・保育士として勤務。その後、他の保育所に40歳で転職。その間に卓球の審判資格、上級と国際審判の資格を取得しアジア大会や国体の審判の経験をしました。この体験が要因となり同年、公務員として学校の用務員に転職し、海外での審判を叶えました。

11年後、またもあと3ヵ月で定年という前に、町議会議員に立候補しました。親戚無し、よそ者は駄目といわれた地域でし

たが、16人中8位で当選しました。

長年、いろいろな保育の現場を見たり体験して感じることは、東筑紫短大保育科の授業は、いかに、現場に即した授業であったかがよくわかりました。どんな困ったことにも臨機応変に対応できたからです。卒業後、永濱先生のお誘いで同窓会でのマジック、保育科での卒業前の講演、文化祭のイベントなどいろいろな体験をさせていただきました。今私があるのは、東筑紫で学んだ保育科生として、卓球部員としての2年間があるからだと思います。他県ではありませんが、議員としてこれからの保育業界の発展と、現在活動している卓球関係にも恩返しとして尽力していこうと思っております。今後の我が母校の発展と同時に、筑紫会の更なる発展と、会員の皆様や永濱会長のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。最後に卓球部でお世話になった福江 潔先生のご冥福をお祈り致します。



# 最後の時を共に迎える

保育学科第49期生 中村友美



園庭にある桜が満開を迎えた頃、最後の子ども達を送り出し、私が勤めた園は昨年静かに閉園いたしました。その園は東筑紫の卒業生が多く働いた園でもありました。

ある日の出来事です。解体準備の為、立ち入る事が許された残り僅かな日に、永濱初子先生が園に足を運んでくださいました。段差のある古い園舎にも関わらず、各教室を見て回られ、「ここが遊戯室ね。ここから沢山の子ども達が巣立ったのね。」

と丁寧にご覧になり、お帰りになる際には、「皆さん大変だったでしょう。お疲れ様でしたね。」と職員へ声をかけてくださいました。私はそのお言葉に励まされました。園を閉じる最後の時

を教え子と共に迎える先生のお姿に、真の教育者の在り方を学ばせていただきました。

改めて感謝申し上げます。

私は今、新たな園で働いています。そこに卒業生は私ただ一人ですが、大学で教えていただいた知識と長年培った経験を活かし、また新たな子ども達の良き援助者となるよう励んでいます。

最後になりましたが、筑紫会の更なるご発展と会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



# 筑紫会バザー

## 筑紫会バザーを終えて

保育学科第26期生 幹事長 中村徳子

筑紫会バザーといえば「お手玉」「布巾」と言われるように

諸先輩方から受け継いできました品を今年も大切に手作りいたしました。

また今年度は、研修会において筑紫会会長でもあります永濱初子先生にご教示いただき作成しました「サンタクローズ人形」も販売しました。テーブル

に並べられた表情豊かなサンタ人形は優しく、小さなお子様からご高齢の方々までの心を癒し「わぁー可愛い！」という声が開かれるなど、バザーの場がとても和みました。

その年の幹事の皆さんによる出品も毎年、楽しみの一つです。令和7年度は、「消しゴム印鑑」によるグッズを中心に洒落な品々も沢山並びました。こうして令和7年11月に開催された筑紫会バザーは、多数のお客様にお越しいただき、出品された販

売物は見事完売となりました。心より感謝申し上げます。

また、今年はバザーの収益金の一部を能登半島地震復興支援として寄付させていただきました。大勢の方のお気持ちと共に復興の一助となることを願っております。

最後になりますが、年に一度の「筑紫会バザー」は、恩師の皆様や卒業生の方々と再開できる貴重な機会です。しかし、卒業生の皆さん、バザーの時だけでなく時々『思い出の共有』『情報交換』『交流』の場として宇城記念館5階、同窓会筑紫会室を訪ねてみませんか？

永濱会長、そして多様な人生を歩んできた方々の話を聞く機会が得られ、新たな価値観や気づきを、もたらします。皆様のご来室をお待ちしております。



# 筑紫会研修会

## 令和7年度 第1回 筑紫会 研修会

日時 令和7年8月3日(日)  
講師 石井 恵美子  
(服飾美術専攻 第16期生)  
テーマ 「年賀状作り」 (消しゴム印鑑)



### 「年賀状作り」

保育学科 第68期生 田下 希優



令和7年度、初めて筑紫会の研修に参加させて頂きました。少し緊張していましたが「賀正」をテーマにしたイレイザースタンプ(消しゴム印鑑)を使った年賀状作りに次第に楽しくなり集中し

て取り組む事ができました。「なすび」の図を鉛筆で下書きし、彫刻刀やカッターで少しずつ彫っていく作業は、思ったより集中力と根気が必要でした。しかし、手を動かしているうちに普段の忙しさを忘れて、なんだか心が落ち着く時間となりました。石井恵美子先生のご指導もわかりやすく、道具の使い方から

彫り方のコツまで丁寧に教えて下さり安心して取り組む事が出来ました。みんな同じ図案でも、彫り方や線の出し方で仕上がりが違うのが面白く、自分らしさも出せたと満足感や達成感がありました。石井先生にもたくさん褒めて頂き、とても嬉しかったです。完成したスタンプを押してみると、手作りならではの温かみがあつて、市販の年賀状とは違った味わいがあります。自分で作った印で新年の挨拶ができるのは、すごく嬉しい事だと思いました。また、他の方の作品を見させていただき、自分には無かった発想に触れる事が出来ました。静かに集中して作る時間、ものづくりの楽しさ、年賀状文化の面白さを一度に味わえる、とても楽しい研修会でした。このような機会を作つて下さった永濱先生をはじめ役員の方々に感謝いたします。ありがとうございました。



## 令和7年度 第2回 筑紫会 研修会

日時 令和7年9月21日(日)  
講師 永濱 初子  
(東筑紫短期大学 名誉教授)  
テーマ 「サンタクロース人形作り」



### 「サンタクロース人形作り」

「思い出と共に」

保育学科 第36期生 松井 友江

清々しい秋晴れのもと、二回目となる研修会が、筑紫会室にて行われました。テーマは「サンタクロース作り」ペーパーナフキンを使ったサンタクロース作りを体験しました。

参加者は短大生から卒業生と年齢も幅広く年代の異なる仲間が同じテーブルを囲み、手を動かしながら自然に会話が生まれる時間は短大時代がふとよみがえるようでした。製作は、思い

思い好みのペーパーナフキンを運び、体や髭、顔の部分に目や鼻を付けていきましたが、折方や貼り合わせ方ひとつで雰囲気が変わり、可愛らしいサンタ、おどけたサンタとそれぞれの個性が表れるようでした。今でも完成したサンタクロースを眺めると再会の喜びや笑い声が思い出されます。物作りを通して人との繋がりがや同窓会ならではの繋がりの強さを感じ、これからの縁を大切にしながら、また皆様と

集える機会を今も尚、楽しみにしたいという思いです

そして、何より印象的でしたのは、恩師であり講師でもありますが、永濱先生のお話の中に「皆さん一緒でなくていい」個性を大切にすることを今も変わらず語っておられたことでした。子どもの育ちに大切なものは何かということに改めて気付かされたと共に先生のバイタリティーあふれるお姿は私たち受講生のパワーとなり、心の支えとなりました。楽しいひとときを本当にありがとうございました。



## 令和7年度 第3回 筑紫会 研修会

日時 令和7年12月7日(日)

講師 永濱 初子  
(東筑紫短期大学 名誉教授)

テーマ 「こま作り」 くるくるまわるこま



## 研修会でのひととき

保育学科 第27期生 古西 順子



今年度の研修会に参加し、手作りする工程を通して、当時の講義や友人と語り合った時間を鮮明に思い出しました。時代と共に変わる姿はありますが、筑紫の心として育まれたものは変わらぬことを感じた研修会。世代を超えた交流の場でもある筑紫会に参加できたことに感謝し

ています。

私は、東筑紫短期大学を卒業し、現在に至るまで保育者として励む毎日を送っています。在学中に学んだ永濱先生の教えは、保育に携わり、子どもたち、職場の仲間とのつながりの中で、大きな支えとなっています。今回の研修会での折り紙コマ作りは、折り方を教え合ったり長く回すために試行錯誤して考えたり、世代間交流もありました。コマ回し大会では競い合いや応援の歓声盛り上がり、とても

楽しく、充実感や達成感を味わうことができました。昔に戻ったような時間を通して保育の原点、そして保育者としての誇りを感じる貴重な時間となりました。

これを願うと共に母校の発展と次世代を担う人材育成に一助となるよう、努力してまいります。筑紫会の益々の発展と未来を担う学生(後輩)の皆様の活躍を心よりお祈りいたします。

## 当番幹事挨拶

## 時代の移り変わりの中で繋ぐ

## 感謝のバトン

服飾美術専攻 第16期生 石井 恵美子



同窓会通信「つくし」第五十五号の発行を心より御祝い申し上げます。昨年より同窓会の当番幹事を仰せつかり身の引き締まる思いです。この同窓会が脈々と続いているのは、永濱会長、諸先輩方のためゆめ努力と、母校を思う熱い情熱があつてこそです。幹事として運営に携わる

中で、その尽力を肌で感じ、改めて深い敬意と感謝を申し上げます。

昨今母校の発展には目を見張るものがあります。令和七年より九州栄養福祉大学に「こども教育学部こども教育学科」、「食環境データサイエンス学科」といった新学部、学科が開設され、時代のニーズに応え進化し続ける姿を大変誇らしく感じております。

一方で、私たちが学び舎で、針と糸を動かし、技術を磨いた

服飾美術専攻科が幕を閉じたことは、一抹の寂しさと時代の移り変わりを実感せずにはいられません。

また、私事ではございますが、昨年八月に行われた研修会にて、消しゴム印鑑作成の講師という大役を仰せつかり、諸先生方や先輩方を前に講習時間を頂けるとは夢にも思っておらず、大変緊張いたしました。皆様と共に創作に打ち込む時間は、何よりも代えがたい学びの場となりました。このような機会を与えて下さった永濱会長、温かくご参加いただいた皆様に心より厚く御礼申し上げます。

早いもので新年度の当番幹事さんへとバトンをお渡しすることとなります。微力ながらこの一年間、伝統ある同窓会の活動に携われた事は、私にとって大きな財産となりました。母校を取巻く環境はこれからも変化していくことでしょう。ここで育まれた精神や絆は、これからの後輩たちの中にも受け継がれていくと信じております。

最後になりましたが、母校の発展と会員皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

## 筑紫会との出会いに感謝

保育学科 第31期生 中内 奈緒美



に学生時代の希望に満ちていた自分を思い出し参加させていだきたいと思いました。

東筑紫短期大学保育学科を卒業して四十年、保育の仕事に誇りを持ち、やりがいを感じながらも、多忙な日々心と体が少し疲れていた頃、一通のハガキが届きました。それは筑紫会当番幹事会の案内でした。永濱初子先生のお名前に懐かしさと共

令和7年度の当番幹事は被服学科一人、食物栄養学科二人、保育学科一人の四人でした。同窓生とはいえ初めてお会いする方ばかりで緊張していると、永濱会長をはじめ役員の皆様や諸先輩方にお声をかけていただき、ほっとして温かい気持ちに包まれました。そして学園祭の筑紫会バザーに携わらせていた

だくことになりました。四人で集まり何度も話し合いを重ねるうちに、昔からの親友のように仲良くさせていただくようになり、作品作りも楽しみになりました。話していると学生時代に戻ったような生き生きとした気持ちになりました。この出会いは筑紫会に繋いでいただいたものです。筑紫会の活動は、ひとえに永濱会長のお力添えと、役員の皆様や諸先輩方のお支えがあったからこそだと本当に感謝しております。今年度の筑紫会バザーには研修会で学んだ紙ナプキンセンターさんの他、心のこもった手作り

作品が並び、大盛況のうちに完売しました。且過市場や能登半島などに心を寄せておられる永濱会長の「支援は継続することが大切。」というお言葉に筑紫の心を重ね、より幅広く社会に貢献できる自分でありたいと思いました。今後も様々な出会いと豊かな学びを大切にしていきたいと思えます。

## つくし会の活動に参加して

食物栄養学科 第27期生 小笠原 恵子



多くの方々によって受け継がれてきた会の歩みの中に身を置くことで、つくし会が大切にしてきた積み重ねの重みを、あらためて感じております。

今年度の大学祭バザーに向けては、当番幹事で何度も集まり、準備を進めてまいりました。学科や学生時代の接点は異なっ

おりましたが、活動を重ねる中で自然と会話が生まれ、それぞれが現在の立場で培ってきた経験を持ち寄る機会ともなりました。当日は、多くの方に足を運んでいただき、無事に完売を迎えることができましたことを、ありがたく思っております。今回の活動を通して、つくし会が果たしてきた役割の大きさと、その歩みを支える責任の重さを実感いたしました。また、会の集まりを通じて、多くの

方々にご縁をいただき、このような場に関わらせていただいたことに感謝し、今後も微力ながら会の活動にお役に立てればと考えております。



# 私の人生の礎となっていた 母校に感謝



食物栄養学科 第27期生 田坂 礼子

を取得し、調理製菓専門学校の職員を経験することが出来ました。

昨年二月、当番幹事会の集まりに、同じ栄養学科卒業の友人と参加したことをきっかけに、被服科一名、保育科一名と我々四名が当番幹事の役割を仰せつかりました。皆、現役で仕事をもち、その活躍ぶりに、同期として誇りを持ち、科を越えてその日から親しくなることができました。

十一月の大学祭に向けてのバザー品作りと開催時のお手伝い、数々の研修会への参加等同窓会筑紫会の伝統ある行事に役員の方々と共に楽しく、一年間交流をさせて頂きました。

私は平成十七年に管理栄養士免許を取得し乳児院、特別養護老人ホームでの勤務、小中学校の栄養教諭、又その経験を活かして専修学校専門課程教員認定証

これも東筑紫短期大学で栄養士の資格を取得することが出来たことで、専門分野での道を続ける事が出来たと今でも大変感謝しております。

食を通して花や緑が好きになり、今は造園業に携わって仕事をしています。植物や樹木も人間と同様に、大自然や大地の恵みから栄養やエネルギーをいただき、生きている命を輝かせ、強く生き抜いています。

食の大切さの基礎基本を学ばせて頂いた経験はこれからも私の人生の糧になり続けてくれることであると思っています。

還暦という記念すべき一年に、皆様と出会えたことに深く感謝申し上げます。

# 新会員入会挨拶

## 保育と介護を生かす



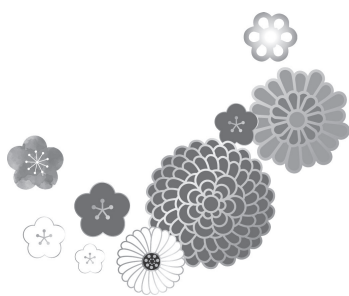
保育学科 第70期生 坂元 玲奈

園教諭として生かせると考えます。東筑紫短期大学の3年間で得た学びを基礎に、これから頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、筑紫会の更なるご発展と、会員みなさまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

萌芽の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、東筑紫短期大学同窓会通信「つくし55号」の発行、誠にありがとうございます。

私は、令和7年3月に東筑紫短期大学保育学科を卒業し、同年4月に同大学の専攻科（介護福祉専攻）に進学しました。専攻科では介護の基礎知識や支援方法を学び、実習を通して相手の立場に立って考える大切さを身につけることができました。私は今年の4月から幼稚園への就職が決まっています。専攻科で得たこの学びは、子ども一人ひとりの気持ちや個性を尊重した関わりや、保護者との丁寧なコミュニケーションを行う幼稚



# 賛助会員

令和7年4月1日  
～令和8年2月末まで

### 保育科・保育学科

- 2期 永濱 初子
- 19期 福永 愉明子
- 22期 堤 わか子
- 26期 林田 裕子
- 26期 中村 徳子
- 29期 石出 真湖
- 36期 松井 友江

ご協力ありがとうございます。

新聞購読をご希望の方は、新聞「つくし」（平成十五年度三十三号より）賛助会員としてご協力していただくようになりました。

### 賛助金

一カ年分 一口 千円  
(お一人様何口でも結構です)

## 令和 7 年度 クラブ活動報告

### 【短大】

クラブサークル名称	活動日付	活動名	活動実績
卓球部	5月16日	第76回全九州学生春季卓球選手権大会	団体戦：オープン試合で順位つかず シングルス：前山 1 勝 1 敗、亀田 0 勝 1 敗 ダブルス：前山・亀田 0 勝 1 敗
	9月1日	第76回全九州学生秋季卓球選手権大会	団体戦：3 部リーグ 2 位 シングルス：前山 0 勝 1 敗、亀田 1 勝 1 敗、樋口 0 勝 1 敗 ダブルス：前山・亀田 0 勝 1 敗
	11月29日	第72回 北九州・下関地区大学体育大会卓球競技	参加予定の大学が棄権のため試合が行えなかった。
ボランティア部 (短大)	7月12日	尾倉幼稚園 夏まつり	尾倉幼稚園の夏祭りボランティアに参加し、場所の振り分けによりヨーヨーすくいを担当しました。屋外で暑い中でしたが、先生方と協力し、子どもたちが楽しめるよう声かけを工夫しながら活動に取り組みました。
	8月31日	令和 7 年度 24 時間テレビ ボランティア	24 時間テレビの募金活動に参加し、セントシティの入口で来場者へ募金協力を呼びかけ、募金の受付と管理を行いました。活動は朝から夕方くらいまで行われ、募金のため家からお金を貯め持ってくる方もいました。
	9月20日	子ども達とのふれあい遊び等 (みのり子育てセンター)	施設内の見学後、2 名は保育園児と 4 名は乳児院の子どもと触れ合う時間をいただいた。生後 2 か月の赤ちゃんを抱っこするのは初めてで緊張したが、とても可愛かった。授乳体験もでき、楽しく、学びの多い時間だった。
	11月8日	ファミリーイベント 「リトル・ママフェスタ」	役割分担し、各ブースの受付や案内、片付け、「ハイハイレース」の補助等を行った。多くの親子と関わり、このような場が増えることは保護者の不安軽減に繋がると感じた。今後も交流の場づくりに関わっていきたい。
	11月8日	そよかぜまつり	この活動で、子どもが安心して参加できる関わりの大切さを感じた。緊張している子どもには笑顔で寄り添い声をかけることが必要だと学んだ。一方で、遊びの難易度を発達段階に合わせて工夫することが課題だと感じた。
	12月13日	日本幼児教育学会第 35 回大会	学生の立場で、このような大きな大会の運営に携わりながら現職教員・保育士等の先生方の取組や保育の今日的課題に直接触れる経験ができたことは、本当に有難いと感じた。他大学の学生との交流も実に有意義であった。
12月14日	あおば幼稚園 生活発表会	生活発表会で子ども達の衣装の着替えを担当し、保護者や保育者と連携しながら援助を行った。着脱援助や衣装の整理を行うなかで現場での協働の大切さを学ぶ事ができ、保育者を目指す私にとって貴重な経験となった。	
バレーサークル	11月1日	第 72 回北九州・下関地区大学体育大会 バレーボール競技 (男子)	他の参加校がすべて部活動として日常的に練習を重ねる中、私たちは唯一サークルとして週一回の限られた活動時間で挑みました。それでも 3 位という結果を残すことができ、活動の質とチームワークの高さを示せたと感じています。
学友会執行部	9月20日	学友会研修	マリンピア豊浦で大学、短期大学の学友会研修を行いました。午前中にレクリエーション、昼食に BBQ、午後からは研修とレクリエーションを行い、大学と短期大学が関係なく関わりコミュニケーションを取ることができました。

### 【大学】

クラブサークル名称	活動日付	活動名	活動実績
FCQ.A. サッカー部	11月8日	北九州・下関地区大学体育大会 サッカー競技	大会参加を通じ、チームワークなど高めることができた。課題+成果を今後にながらさらなる成長を目指していきたい。
豊作 (同好会)	4月26日	萩病院ボランティア	萩病院にて来場者およびスタッフの方々に InBody と TMT を実施した。測定補助や説明対応を通じて、貴重な機会の中で実践力を養うことができた。

クラブサークル名称	活動日付	活動名	活動実績
卓球同好会	9月28日	令和7年度 第5回ファイテン杯秋季卓球大会	<p>【団体】 ドライブミスやサーブミスが目立った。セットをとってリードしていて油断している人がいた。練習としてはドライブブロック、サーブ、レシーブ練習を行い、ゲーム練習は8-8からや8-10を増やそうと思う。</p> <p>【個人】 戦い方自体は悪くなかった。レシーブのコースや、スピードを厳しく行くと点が取れたと思う。練習ではコース分けや逆突きを意識して取り組み、次回に生かしていきたい。</p>
Smart Diet Club (部)	5月21日	WeLove 小倉トマトの恩返しシリーズ取り組み発表	WeLove 小倉総会で、トマトのおんがえしシリーズの活動発表を行いました。 小倉北区長や、井筒屋、辻利など小倉を代表するお店の方がおり、次の活動に繋ぐことができました。
	6月4日	調理スキルアップ講座	カゴメ主催のアイデアコンテスト「野菜が不足している20代男女の野菜摂取量を持続的かつ週刊的に増やすためのアイデア」を考えるために試作を行った。 簡単に摂れるようにすることを目的に、野菜をミキサーにかけてペースト状にし、冷凍し、調理に幅広く使用できるようにした。
	6月25日	赤ちゃんのための食育講座（離乳食アドバイス）	今回、井筒屋で開催された「赤ちゃんのための食育講座」に参加しました。 お母さんたちのお悩み相談を聞き、授業や臨地実習で得た知識や、離乳食レシピの話をさせていただきました。素晴らしい経験になりました。
	6月28日	調理スキルアップ講座	アイデアコンテストのために試作を行った。野菜をペースト状にして野菜シートを作ってみたが上手くできなかった。
	8月18日	みらいライオンズクラブ学生支部活動報告	今回、みらいライオンズクラブ学生支部として、九栄わんぱくハウスの子ども食堂の取り組みを報告しました。多くの方に、学生主体の子ども食堂を知ってもらいたい機会となりました。
	8月29日	醤油の商品開発（スマソる）	スマートにソルトを使う減塩を目的とした取り組みに参加し、減塩しょうゆの商品開発の話し合いに参加しました。他大学の栄養学生とも話すことができ、交友の場が広がるいい機会となりました。
	10月15日	スキルアップ講座	カゴメの「20代の野菜不足解消アイデアコンテスト」に向けて試作を行った。かぼちゃ、小松菜、にんじん、さつまいもをハンドミキサーでペースト状にし、平らに成形してオーブンで加熱した。それに米粉を混ぜこみ、米粒程度に成形しフライパンで焼いた。焼いたものと水が1対1になるようにし、圧力鍋で加熱した。野菜米を試作して問題点を共有し合ったり、見直すべき部分を明確にしたりした。
	10月15日	調理スキルアップ講座	今回、調理スキルアップ講座では、米粉と野菜を練りこんだ米を作りました。一粒ずつ丸めるのは大変でしたが、野菜をたくさんとれる栄養価の高い食材を作りました。その米をドリアやおにぎりにしておいしく食べました。
	10月19日	JCOM アクション支援プロジェクト	11月19日に行われたJCOM アクション支援プロジェクト大会で、JCOM さんに支援していただいた、竹炭かりんとう JETblack の活動報告を行いました。北九州市の課題を食で解決する授業について説明し、竹炭かりんとうを配布することで、多くの方に知ってもらうことができました。
	11月7日	醤油の商品開発（スマソる）	スマートにソルトを使う減塩を目的とした取り組みに参加し、減塩しょうゆの商品開発の話し合いに参加しました。2回目の開催は、福岡県知事に開発した減塩醤油や減塩方法などについて報告を行いました。今後減塩について意識して生活したいと思えた活動となりました。
11月17日	アイデアコンテスト 最終審査会	東京で行われる「20代の野菜不足解消アイデアコンテスト2025」に参加した。野菜摂取不足が問題となっている20代にどうしたら手軽に野菜を摂取してもらえるか考え、「野菜米」を考案して試作を行ったことなどを通して当日7分間のプレゼンを行った。プレゼンでは自分たちの考えを伝えることができた。私たち以外に他4組が選ばれており、アイデアの斬新さだけでなく、プレゼンの仕方も勉強になり、とてもいい経験になりました。	

クラブサークル名称	活動日付	活動名	活動実績
Smart Diet Club (部)	1月19日	スキルアップ講座	生徒自ら、買い出しや調理を行った。新年一発目の活動ということもあり、新しいメンバーでの活動でした。料理の腕も上がったし、仲間との交流も深めることができ、とてもよい機会となった。
	2月5日	ふくおか地域活動づくり活動賞受賞	今年度、スマートダイエットクラブでふくおか地域づくりネットワーク福岡県協議会入会しました。その際、ふくおか地域づくり活動賞に応募し、令和6年度に行ったサンタウォークの取り組みが福岡地域づくり活動賞を受賞しました。
45-m. ヨンジュウコム (部)	8月11日	軟式野球チーム「苺田スラッガーズ」でのデータ測定	軟式野球チーム「苺田スラッガーズ」の小・中学生を対象に、卒業研究用のデータ測定を実施した。研究内容は食品摂取多様性及び、柔軟性に関するものである。今後卒業研究としてまとめるとともに、選手へのフィードバックを行う予定である。
	8月31日	PTagora ! 2025	今回、フィジリニック学生の部で「～やってみたくてまだ踏み出せてないこと～」についてでマンダラチャートについて登壇させていただいた。今回は1年生も参加することができ、45- m. の活動も伝えることができたため今後の活動にも活かしていけたらと考える。
	9月6日	東先生講演会	今回の講演会は45- m. メンバーを中心に企画から運営まで行った。また、3年生のコアメンバーにも運営を手伝ってもらった。スポーツ傷害の予防において、「動きのエラー」を見抜くことの重要性、対象者のニーズを踏まえたアプローチの大切さ、解剖生理、運動学といった基礎知識の必要性を学ぶことができた。
	9月22日	苺田スラッガーズ フィードバック	軟式野球チーム「苺田スラッガーズ」の小中学生を対象に、卒業研究のフィードバックを実施した。選手一人ひとりに対し、測定した柔軟性や食品摂取に関する結果を個別にコメントした。また、教員の長野から選手・保護者を対象に成長期のスポーツ選手の栄養をテーマに講演を行った。今後も苺田スラッガーズとの交流を深めていきたい。
アウトドアサークル	5月24日	デイキャンプ	新入生歓迎会も含めて帆柱キャンプ場でデイキャンプを行いました。大雨の中でしたが貴重な体験ができました。
	7月13日	デイキャンプ	アウトドアサークルで2回目となるデイキャンプを行いました。今回は先生特性のカレー、やきそば、ピザを作り、スイカ割りをしました。色々ハブニングがありましたが、楽しく活動することができました。
	9月14日	キャンプ	大分県の泉水キャンプ場にて、キャンプを行った。これまでデイキャンプで初の泊まりのキャンプだった。必要なものは自分たちで買い出しをし、夜はバーベキューを行った。翌日の朝は手作りピザをし、おいしくできた。自然を感じながら楽しく活動できた。
バレーサークル	11月1日	第72回北九州・下関地区大学体育大会バレーボール競技(男子)	他の参加校がすべて部活動として日常的に練習を重ねる中、私たちは唯一サークルとして週一回の限られた活動時間で挑みました。それでも3位という結果を残すことができ、活動の質とチームワークの高さを示せたと感じています。
けがゼロ Lab	7月8日	InBody 測定会	東筑紫学園高等学校において、教職員を含む22名のInBody測定を行いました。測定後には、成長期のスポーツ選手に必要な体成分の説明や思春期における脂肪量の過度な減少を防止するといった内容の説明を行い、けがをゼロにするための活動を行いました。
学友会執行部(大学)北区キャンパス	9月20日	学友会研修	今回の研修で、ワールドカフェで多くの意見を交換し、レクリエーションやBBQを通して学年間の交流を深めることができました。交流の中で学んだことを次回以降の活動に反映させ、より充実した学友会運営につなげたいです。
学友会執行部(大学)南区キャンパス	9月14日	九州地区大学体育競技会体育系学生リーダーズトレーニング	今回の活動はグループワークやレクリエーション、講義などを通してリーダーとしての知識や資質の向上を目標として活動を行った。他大学と交流を持つことで新たな刺激を得ることができた。

令和 6 年度 東筑紫短期大学同窓会筑紫会収支決算書  
令和 7 年 3 月 31 日 (単位 円)

令和6年度 東筑紫短期大学同窓会筑紫会収支決算書  
令和7年3月31日(単位 円)

収入の部		備考
入会金	800,000	令和6年度入会金 @5,000 × 183名
会費	320,000	令和6年度会費 @2,000 × 183名
費助金	50,000	16,000 13名 4,000×1名 1,000×12名
ハッピー売上げ	0	114,400 大学祭ハッピー売上
雑収入	0	0
前年度繰越金	0	485,542
活動費	1,765,542	1,281,000
収入合計	2,936,542	3,177,942

支出の部		備考
事務費	130,000	66,849 文書・事務処理 他
通信費	100,000	53,200 つくし54号送付料、役員会案内他
消耗品費	270,000	58,021 かつりー・事務用品、フエッソール他
新聞発行費	300,000	29,965 令和6年度理事会・当番幹事会等
入会記念品料	200,000	300,100 「つくし54号」印刷代、投函者お礼
総会補助費	200,000	218,680 新会員入会祝記念品、新会員名簿代等
研修会費・事業活動費	200,000	115,959 令和6年度 幹事会案内等
雑費	86,542	174,982 大学祭ハッピー・材料費、講演会巡回経費
名簿積立金	200,000	147,057 1号箱1階蔵、済理等
計	1,816,542	200,000 令和6年度名簿積立金
次年度繰越金	0	532,129
活動費繰越金	1,120,000	1,281,000
支出合計	2,936,542	3,177,942

以上の決算書は、監査の結果適正であることを報告いたします。

令和 7 年 5 月 27 日

会計監査

石川 加代子  
白石 弘子

令和 7 年度 東筑紫短期大学同窓会筑紫会収支予算書  
令和 7 年 4 月 1 日 (単位 円)

令和7年度 東筑紫短期大学同窓会筑紫会収支予算書(案)  
令和7年4月1日(単位 円)

収入の部		備考
入会金	600,000	令和7年度入会金 @5,000 × 120名
会費	240,000	令和7年度会費 @2,000 × 120名
費助金	50,000	
雑収入	1,813,129	
収入合計	2,703,129	

支出の部		備考
事務費	100,000	文書・事務処理 他
通信費	100,000	役員会・当番幹事会等案内
消耗品費	100,000	かつりー・事務用品、フエッソール他
新聞発行費	150,000	理事会・令和7年度新幹事会・交通費等
入会記念品料	300,000	「つくし通信155号」印刷
総会補助費	100,000	新会員入会祝記念品、新会員名簿代等
研修会費	200,000	令和7年度総会に関する補助等
雑費	200,000	ハッピー作品、かつり等
名簿積立金	313,129	慶弔・災害見舞金等
計	300,000	令和7年度積立金
次年度繰越金	1,863,129	
活動費繰越金	0	
活動費繰越金	840,000	
支出合計	2,703,129	

基金積立金	名簿積立金
前年度繰越金	前年度繰越金
1,451,372	2,400,636
当年度取崩金	令和7年度名簿積立金
0	300,000
次年度繰越金	次年度繰越金
1,451,372	2,700,636

学校法人 東筑紫学園

# 東筑紫短期大学

## ◆ 保育学科

〔取得及び取得目標資格〕

幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、認定ベビーシッター、  
こども音楽療育士、レクリエーション・インストラクター資格

## ◆ 保育学科専攻科 介護福祉専攻

〔取得及び取得目標資格〕

介護福祉士資格、  
福祉住環境コーディネーター検定<sup>®</sup>（東京商工会議所の登録商標です）

## ◆ 食物栄養学科

〔取得及び取得目標資格〕

栄養士免許、栄養教諭二種免許状、医療秘書実務士、医事実務士、フードスペシャリスト、  
専門フードスペシャリスト、食品安全検定、日商PC検定（文書作成）、美容栄養学専門士

政令都市・北九州市のほぼ中心地、若者の街と言われる下道津の大きなクロスロードにある東筑紫短期大学。  
建学の精神「筑紫の心」を基盤にした人格教育と「子育て」「食」「介護」という、人間の生活に欠かすことのできない  
専門的な教科教育が一体となった「生活者実学」を行い、地域社会に貢献できるプロフェッショナルを育成します。



# 九州栄養福祉大学

## ◆ 大学院健康科学研究科 修士課程

## ◆ 食物栄養学部

### 食物栄養学科

〔取得及び取得目標資格〕

管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許、栄養教諭一種免許状、  
食品衛生管理者（任用資格）、食品衛生監視員（任用資格）

### 食環境データサイエンス学科

〔取得及び取得目標資格〕

上級データサイエンスAI実務パスポート、G検定、  
基本情報技術者・ITパスポート試験、DS検定リテラシーレベル

## ◆ リハビリテーション学部

### 理学療法学科

〔取得及び取得目標資格〕

理学療法士国家試験受験資格、園芸療法士、初級パラスポーツ指導員

### 作業療法学科

〔取得及び取得目標資格〕

作業療法士国家試験受験資格、園芸療法士、初級パラスポーツ指導員

## ◆ こども教育学部

### こども教育学科

〔取得及び取得目標資格〕

小学校教諭一種、特別支援学校教諭一種、幼稚園教諭一種、保育士資格



大学・短大 小倉北区キャンパス



小倉南区キャンパス  
（リハビリテーション学部）





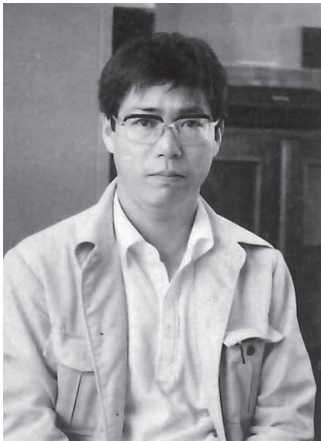
宇城力子先生



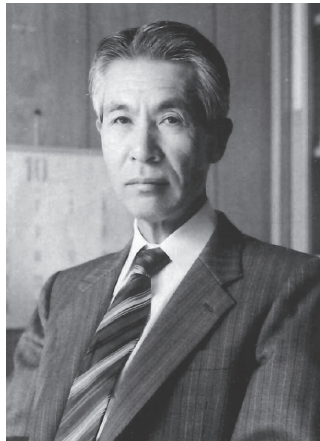
〈創設者〉  
宇城信五郎先生



なつかしい思い出



朝長昌三先生



飯田正廣先生



白浜大次先生



被服科  
授業風景



浜田玉恵先生



食物栄養科  
授業風景



保育科  
授業風景



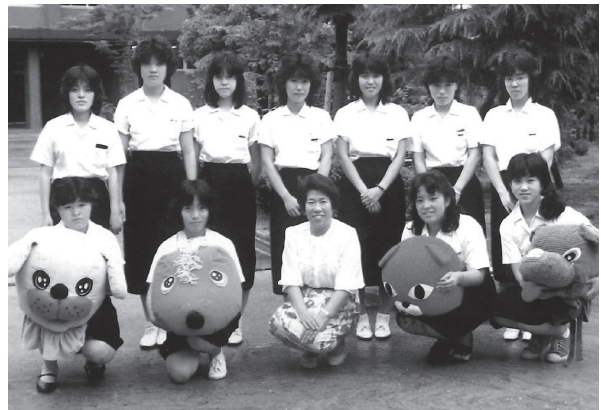
針供養



昭和60年8月  
宇城記念館竣工式



卓球部



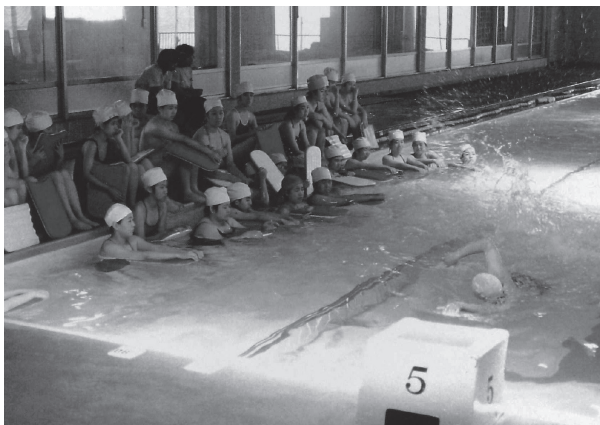
話術部



硬庭部



琴曲部



水泳実習



図書館

東筑紫短期大学同窓会 筑紫会

長い間、筑紫会にご協力いただき、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。今後とも、ご指導の程よろしくお願いいたします。尚、新役員につきましては、令和8年度書面総会にてご報告いたします。

Table with 2 columns of names and titles: 会長 永濱 初子, 副会長 廣瀬 周子, 理事長 山本 鈴子, 会計監査 石川 加代子, 理事 小川 洋子, 書記 福永 愉明子, 会 計 川口 ひとみ, 幹事長 中村 徳子, 副幹事長 松井 友江, 評議員 井上 登美子, 和田 悦子, 太田 アサカ, 宮尾 節子, 中野 摩耶, 西田 しのぶ, 木村 幸代, 河村 香織, 関野 文, 渋谷 ルミ, 岩本 ひさみ, 今丸 環, 實松 園子, 中村 奈々美



訃報

東筑紫短期大学 准教授 三浦 薫 先生

東筑紫短期大学同窓会 筑紫会理事

空 閑 千恵美 様

令和七年九月十日ご逝去

ご逝去を悼み、ご生前のご功績を偲び心から謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



編集後記

じゃあね 谷川俊太郎

思い出しておくれ あの日のこと 楽しかったあの日のこと けれどそれももう過ぎ去って じゃあね

いつか夜明けの夢のはざままで また会うこともあるかもしれない じゃあね もうふり返られなくていいんだよ さよならよりもきっぱりと じゃあね じゃあね……

令和六年十一月十三日 死去

旅立つあなたへ じゃあね じゃあね じゃあね

編集者

